慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 河内石川村學術調査報告, 近世村落資料(野村豊編, 大阪府南河内郡石川村役場發行) |
| Sub Title | |
| Author | 武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1952 |
| Jtitle | 史学 Vol.25, No.4 (1952. 9) ,p.104(537)- 104(537) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 書評 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19520900-0104 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 書　評

## 河内石川村學術調査報告

### 近世村落資料（野村豐編　大阪府南河内郡石川村役場發行）

わが國寒天の歴史地理學的研究の權威者として知られ、これに關する多數の著編ある編者は、其の故郷であり永住の地である石川村についても亦既に古墳時代の調査研究を發表されたが、近年「我が國に於ける村落の研究」の一部として、この石川村の變遷を歴史地理學より考察を試み、今次、村内の舊家古寺等にて採訪の先人未見の古文書古記錄等を整理し、この中約五百點を一括上梓せられた。

石川村は大阪市の東南約七里、人口二五〇〇、戸數五〇〇、東には高い金剛山脈、西には低い河南丘陵があり、其の間を北流する石川の溪谷の略ぼ中央部、石川と其の支流に挾まれる臺地の尖端部に位する古代からなる由緒ある農村である。戰後の社會變動に禍されて各地の村落に父祖の殘した古文書古記錄等を棄てて反古とし、燒いて灰として少しも顧るもののない時に本書の上木は近世村落史料並に庶民史料保存に對する警鐘と云ふべきである。



本書に收錄のものは天正以來明治初年に亘る同村の生活資料で、就中、同村に於ける用水の水車利用と其の季節による封印、出入に關する多數の文書は近年毎歳問題となる電氣動力の利用制限と思い合せて頗る興味を抱き、また浪華と近接のため商品作物として棉花の栽培のあつたことをも知るなど經濟史研究者にも亦必讀の資料であることは記す迄もない。

終りにかく貴重の資料の蒐集に努力の編者に敬意を表し、既に脱稿の本論「河内石川村の研究」の印行を待望し、更にかくも多數の資料を今日までよくも保存愛藏された石川村民の愛郷心並に上梓に當り費用を吝まず、本書を學界に贈つた竹綱村長始め有志各位の理解に編者の學友の一人として、敬謝の意を表するものである。

（昭和二七年六月二〇日、清水市東海大學文學部研究室にて、武田勝藏）

## 世界史における日本（G・B・サンソム著　大窪愿二譯）

一昨（一九五〇）年十二月、著者サー・ジョージ・サンソム氏は東京大學に招かれて、同月上、中旬にかけ、五回にわたる連續公開講義を行つた。題して "Japan in World History" という。本書は主としてその講義草稿に若干筆を加えて出版されたも